



OTC医薬品
-くすりを正しく知って、正しく使おう-
[朝日中学生ウィークリー]
集計結果報告書



2012年4月
朝日新聞東京本社広告局

1. 調査概要



- 対象紙面 2012年3月4日(日)付 朝日中学生ウイークリー 全面広告
- 地域 全国版
- 集計対象者 上記広告に応募した男女個人
- 応募者数 62人(FAX 3人、インターネット 59人)
- 集計対象者数 60人(FAX 3人、インターネット 57人)
※応募者数 62人より、同一回答者による複数応募を除いた。

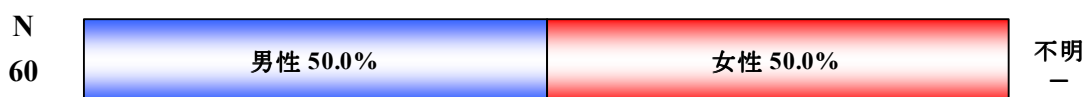
(注意)この集計結果報告書では、集計対象者数は60人です。
属性別の分類集計では少ないサンプル数となるため、参考程度でお読みください。



2. 回答者の属性

①性別

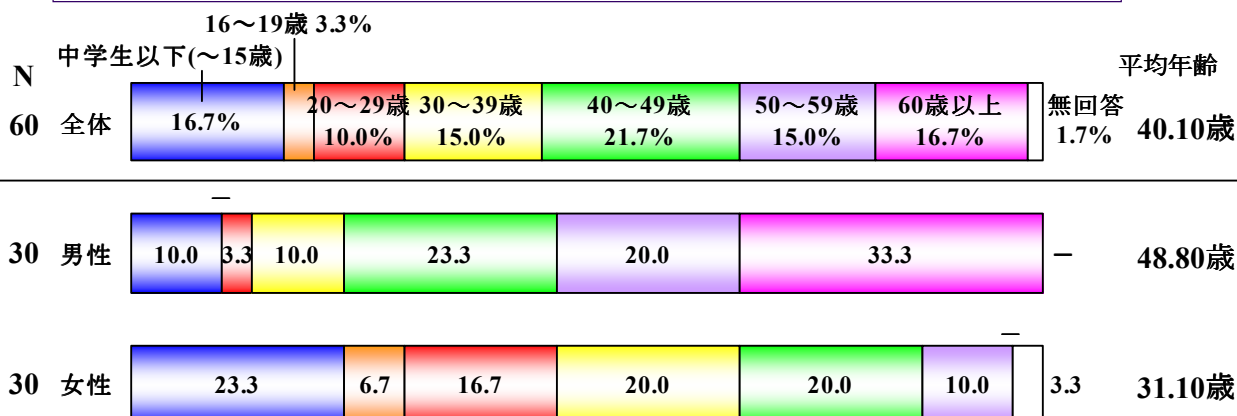
男性が50.0%、女性が50.0%であり、同じ割合である。



②年齢

「中学生以下(～15歳)」は16.7%であり、回答者全体の6分の1を占めている。「16～19歳」の学生に相当する人は3.3%であった。20歳以上の回答者については、「40～49歳」(21.7%)が2割以上で最も多く、以下、「60歳以上」(16.7%)、「50～59歳」(15.0%)、「30～39歳」(15.0%)とつづいている。回答者の平均年齢は、40.1歳である。

【性別】男性では、「60歳以上」(33.3%)が3分の1を占めている。女性では、「中学生以下(～15歳)」の割合が23.3%であり、男性の10.0%を上回っている。平均年齢は、男性が48.8歳、女性が31.1歳で、男性の方が18歳程度上回っている。





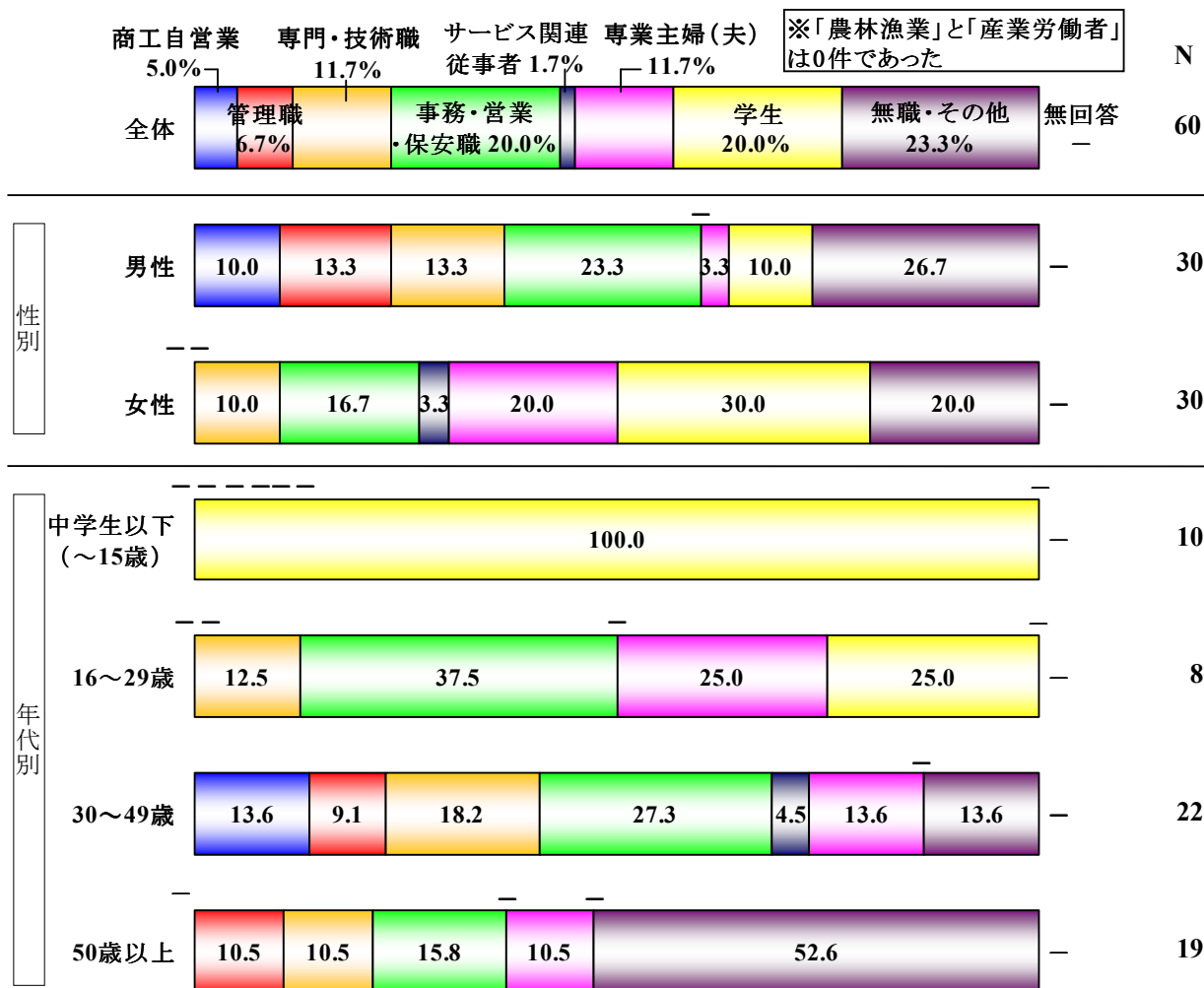
③職業

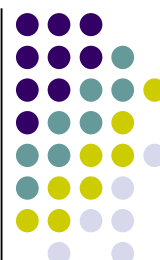
—全体、性別、年代別—

「無職・その他」(23.3%)が2割以上で最も多い。また、「学生」(20.0%)は2割であった。有職者では、「事務・営業・保安職」(20.0%)、「専門・技術職」(11.7%)、「管理職」(6.7%)などがみられる。

【性別】男性では、「無職・その他」(26.7%)、および「事務・営業・保安職」(23.3%)が多い様である。女性では、「学生」(30.0%)、「専業主婦」(20.0%)、および「無職・その他」(20.0%)が多くみられる。

【年代別】16～29歳では、有職者、専業主婦、学生の人それぞれみられる。30～49歳では、有職者の割合が上がり、「専業主婦」、および「無職・その他」はそれぞれ1割台である。50歳以上では、半数以上で「無職・その他」がみられる。



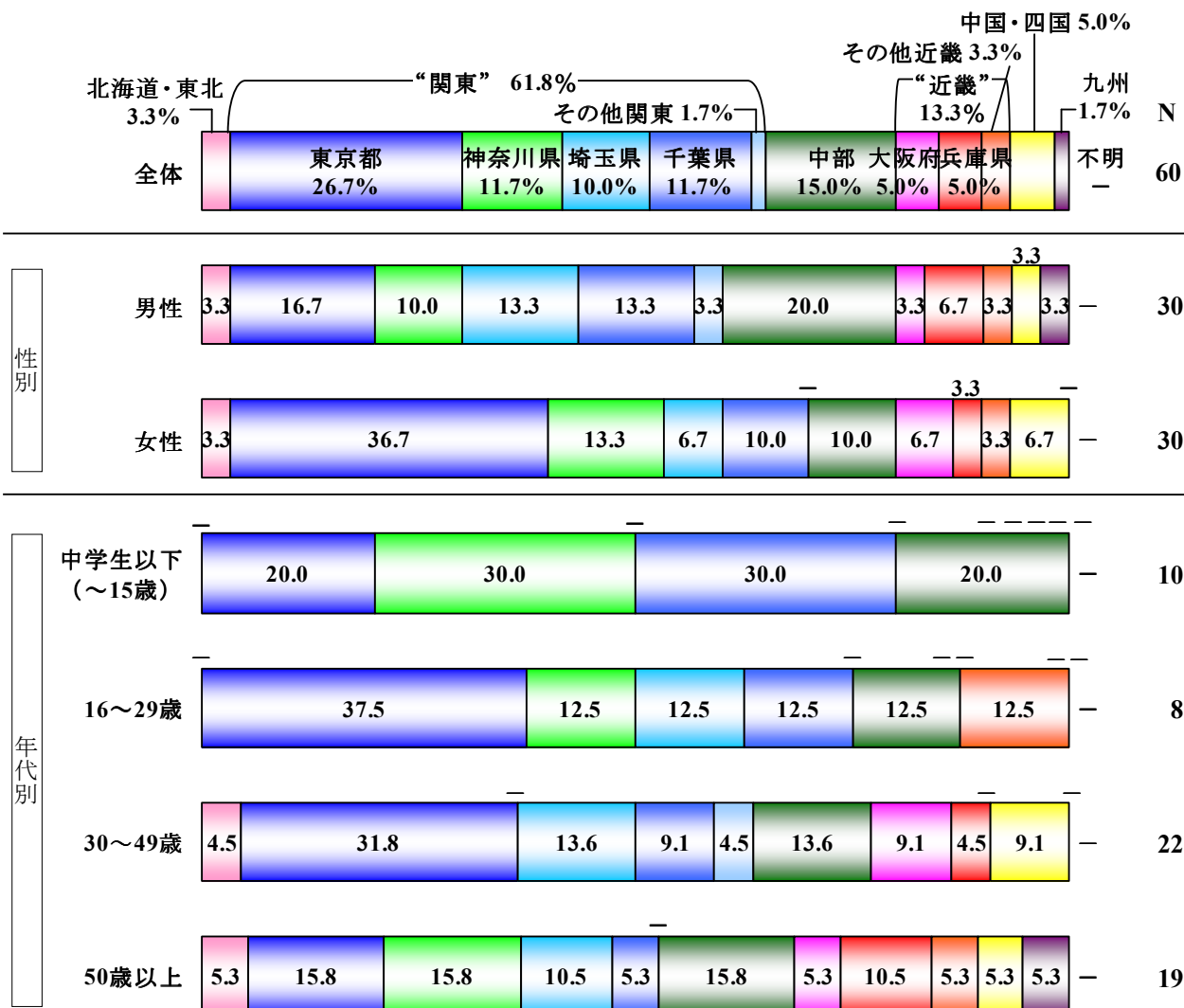


④居住地 —全体、性別、年代別—

「東京都」「神奈川県」「埼玉県」「千葉県」「その他関東」を合わせた“関東”(61.8%)が6割を占める。「大阪府」「兵庫県」「その他近畿」を合わせた“近畿”(13.3%)が1割以上、「中部」(15.0%)も1割以上である。

【性別】女性では、「東京都」(36.7%)の割合が高いと考えられる。

【年代別】中学生以下(～15歳)の回答者は、「東京都」、「神奈川県」、「千葉県」、および「中部」であった。30～49歳、および50歳以上の年齢層では、居住地に偏りのない応募がみられる。



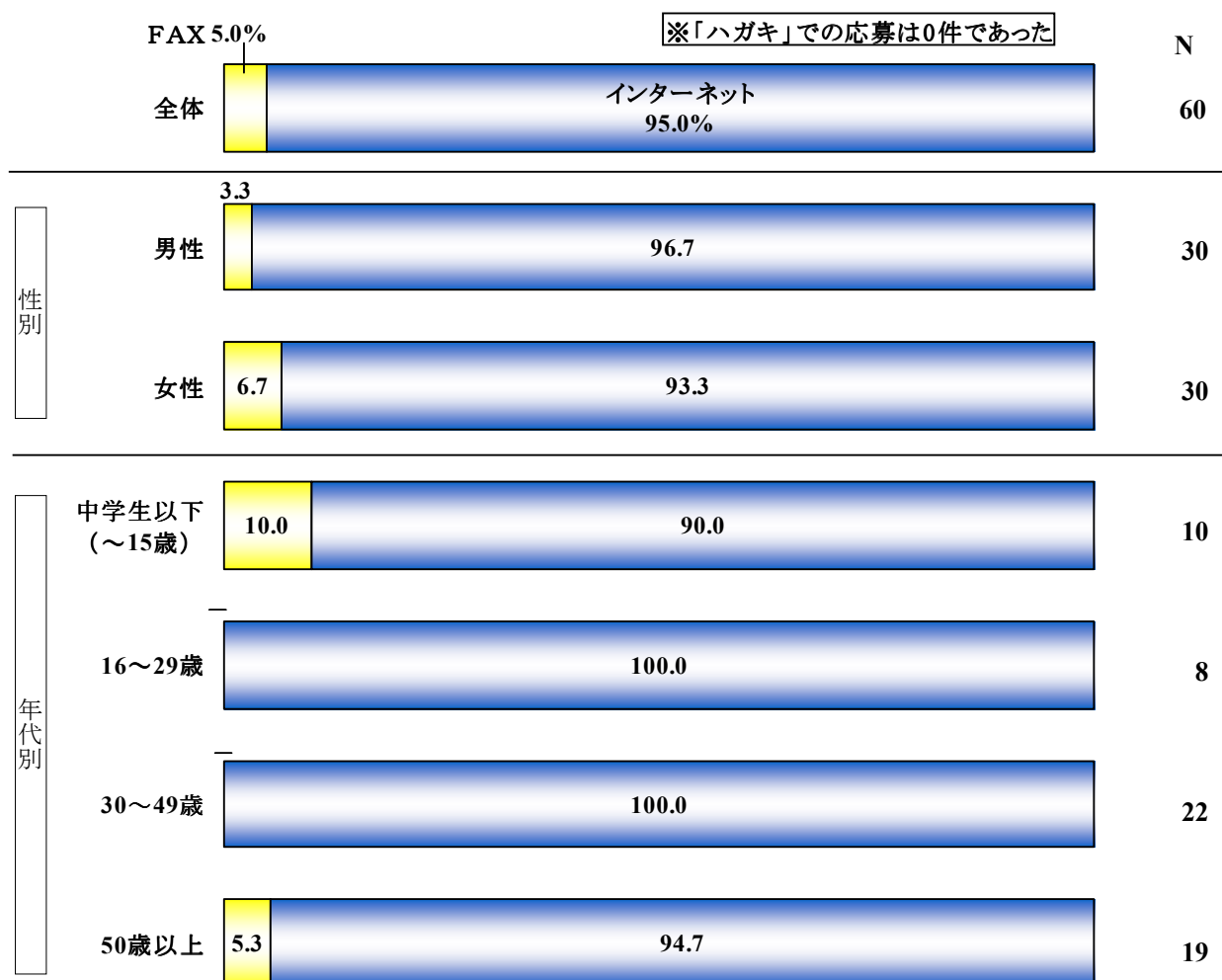


⑤応募方法 －全体、性別、年代別－

「インターネット」による応募が95.0%と大部分であり、「FAX」は5.0%でわずかである。ハガキによる応募はみられなかった。

【性別】男性、女性ともに、「インターネット」による応募が9割以上を占めている。

【年代別】「FAX」による応募は、中学生以下(~15歳)、および50歳以上の人に見られた。





3. アンケートの回答

(1) 「OTC医薬品」の認知度

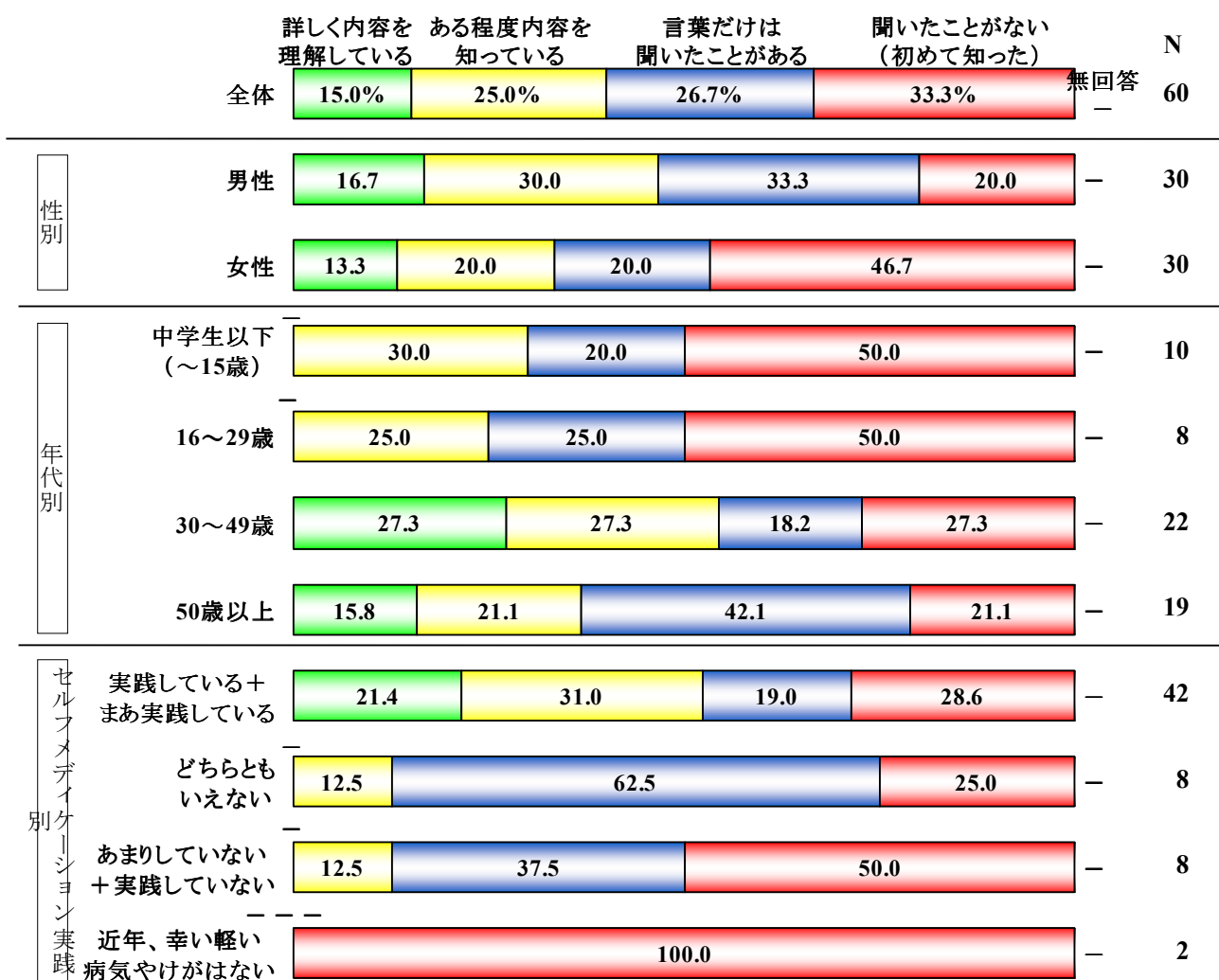
—全体、性別、年代別、セルフメディケーション実践別—

「OTC医薬品」という言葉については、「詳しく内容を理解している」(15.0%)、「ある程度内容を知っている」(25.0%)を合わせて、4割の人が知っていると回答している。「言葉だけは聞いたことがある」(26.7%)は2割以上、「聞いたことがない(初めて知った)」(33.3%)は3割以上である。

【性別】男性、女性ともに、「詳しく内容を理解している」と回答した人は、1割台である。女性では、「聞いたことがない(初めて知った)」と答えた人が46.7%であり、男性に比べて多いと考えられる。

【年代別】中学生以下(~15歳以下)、および16~29歳の年齢層では、「詳しく内容を理解している」と答えた人はいなかった。

【セルフメディケーション実践別】セルフメディケーションの実践を『している』(「実践している」+「まあ実践している」と回答した人では、「OTC医薬品」についての認知度が高いことがうかがえる。





(2) 「セルフメディケーション」実践状況

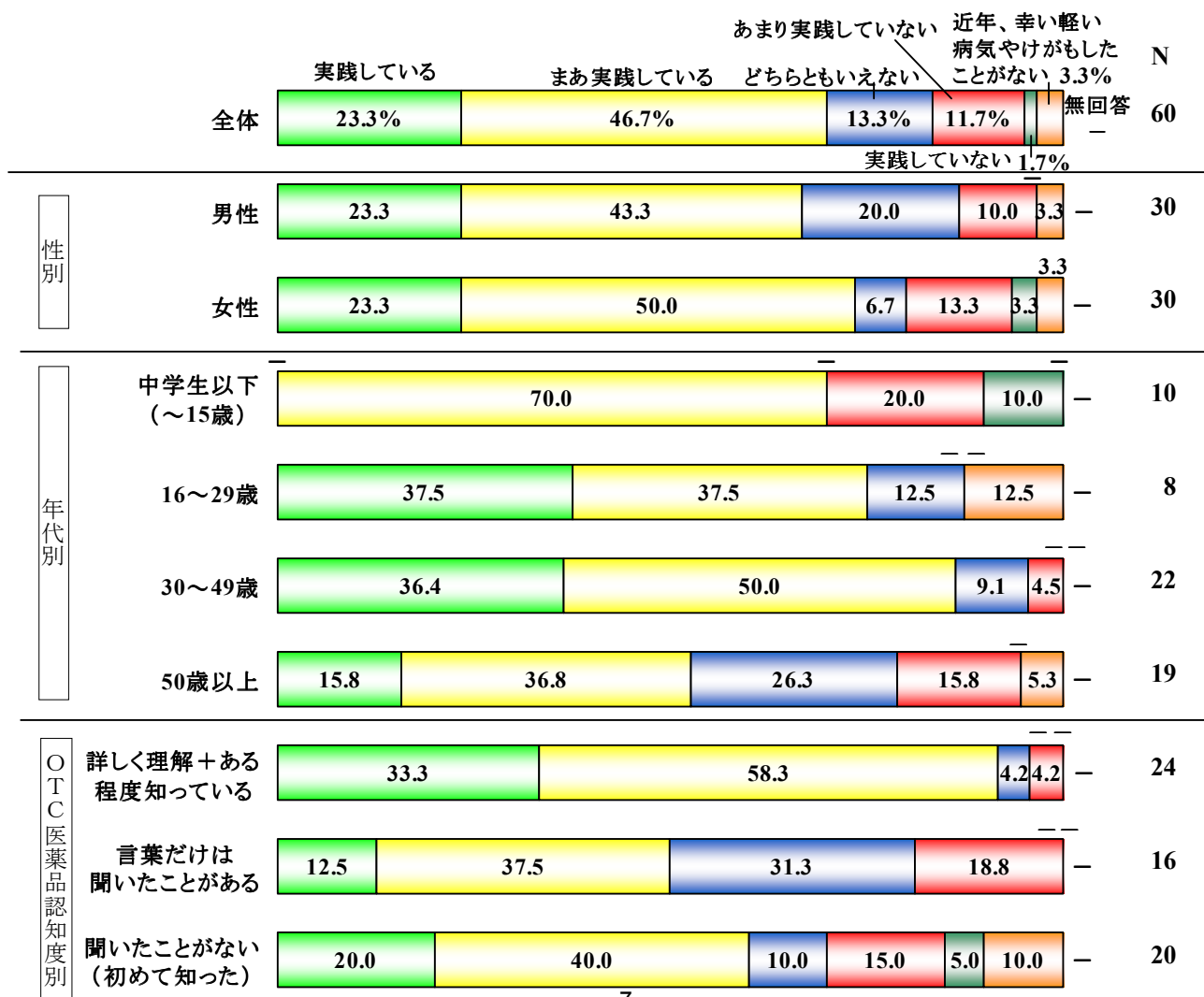
—全体、性別、年代別、OTC医薬品認知度別—

自分自身で責任をもって健康状態を管理する「セルフメディケーション」については、「実践している」が23.3%、「まあ実践している」が46.7%で、これらを合わせると7割の人が実践していると答えている。「どちらともいえない」が13.3%、「あまり実践していない」が11.7%、「実践していない」が1.7%、「近年、幸い軽い病気やけがもしたことがない」が3.3%である。

【性別】男性、女性どちらも、「まあ実践している」と答えた人が最も多い。

【年代別】中学生以下(～15歳)では、「まあ実践している」と答えた人が7割であり、「実践している」という回答はみられなかった。

【OTC医薬品認知度別】OTC医薬品の認知度が『知っている』(「詳しく内容を理解している」+「ある程度内容を知っている」)と答えた人では、「実践している」の割合が33.3%と3割以上である。



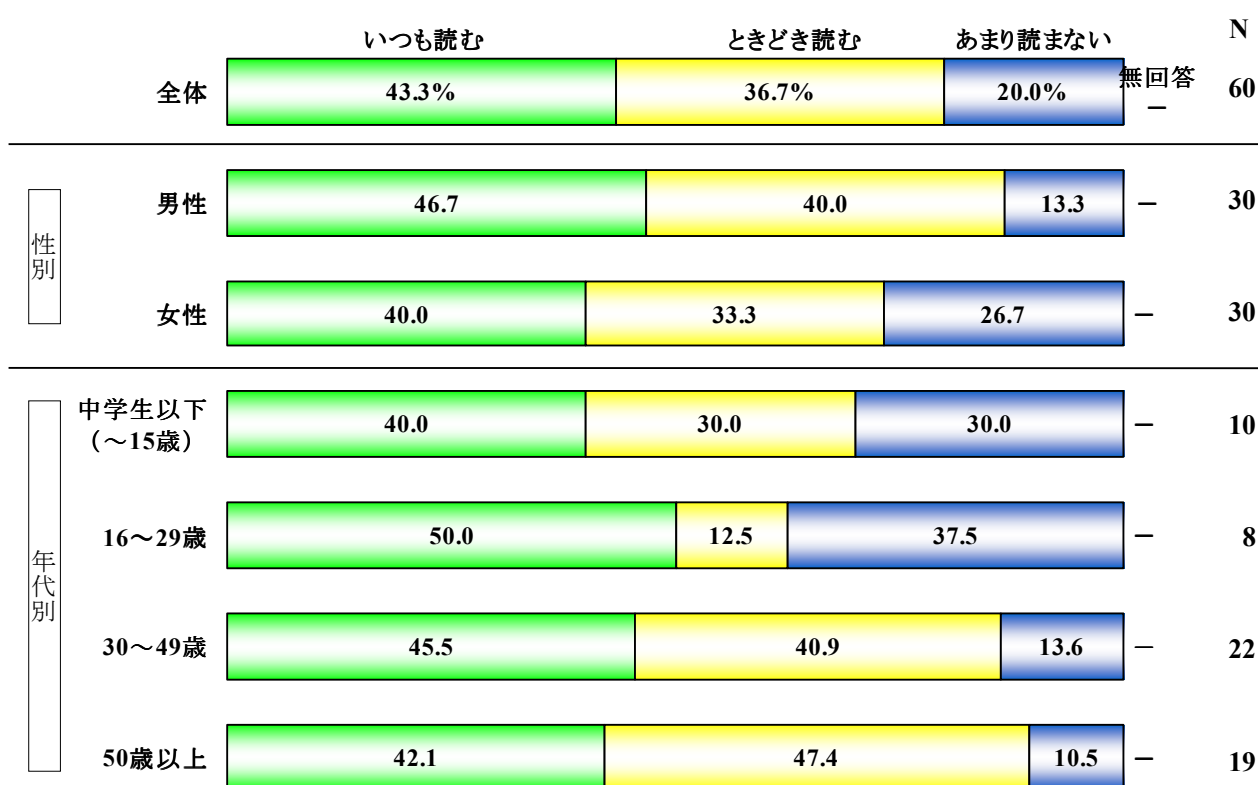


(3) 添付文書（薬の説明書き）を読むかどうか -全体、性別、年代別-

「OTC医薬品」の添付文書（薬の説明書き）については、「いつも読む」が43.3%、「ときどき読む」が36.7%、「あまり読まない」が20.0%である。

【性別】男性、女性ともに、「いつも読む」と答えた人が多いと考えられる。参考程度での見解となるが、女性では、「あまり読まない」の割合が、4人に1人の割合であり、やや目立っている。

【年代別】中学生以下（～15歳）を含めたすべての年齢層において、「いつも読む」と答えた人が4割から5割みられる。参考程度での見解となるが、16～29歳では、「あまり読まない」と答えた人がやや多いと思われる。





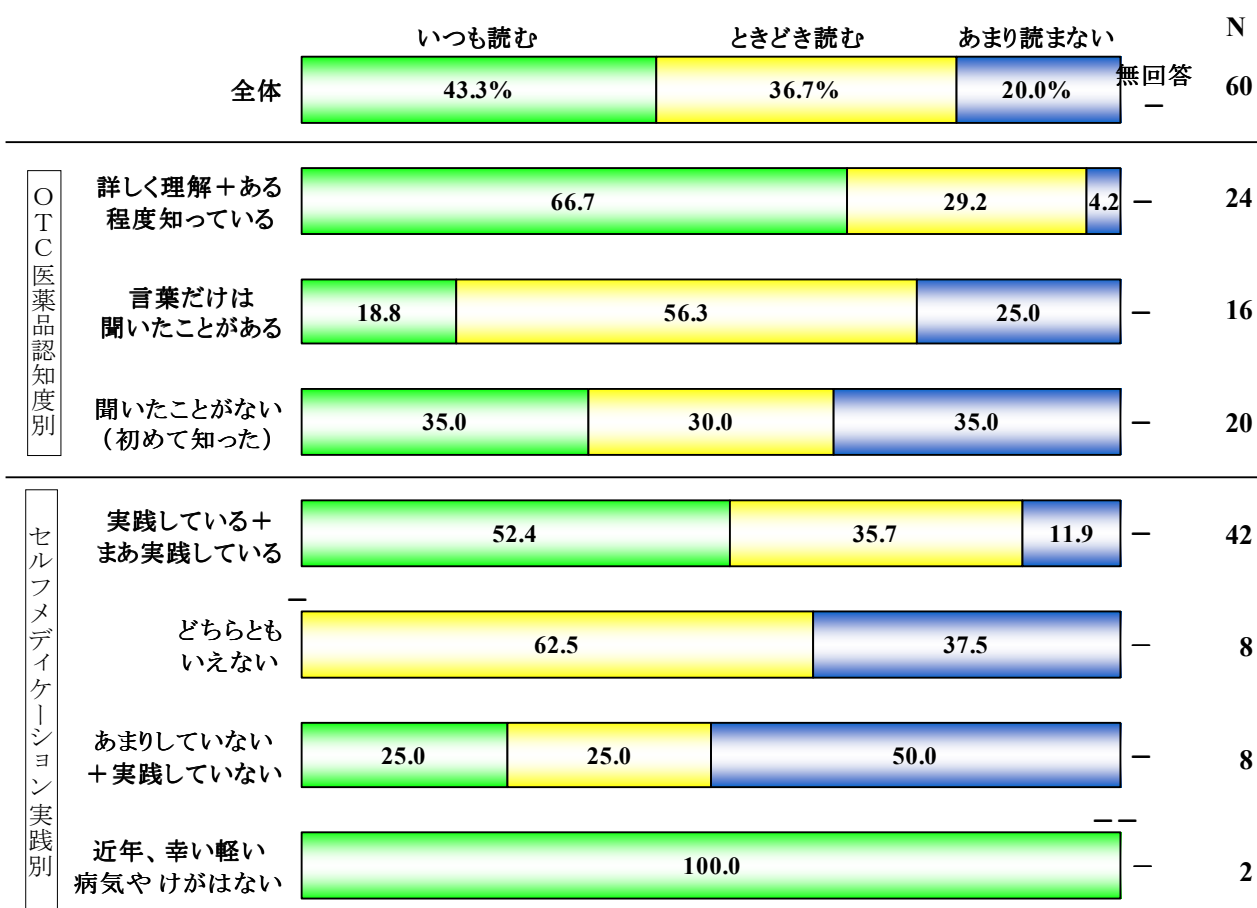
(3) 添付文書（薬の説明書き）を読むかどうか －全体、OTC医薬品認知度別、セルフメディケーション実践別－

【OTC医薬品認知度別】

OTC医薬品の認知度で『知っている』（「詳しく内容を理解している」＋「ある程度内容を知っている」）と答えた人では、「いつも読む」（66.7%）が3分の2を占めている。

【セルフメディケーション実践別】

セルフメディケーションの実践を『している』（「実践している」＋「まあ実践している」）と回答した人では、「いつも読む」と答えた人が52.4%であり、セルフメディケーションの実践をしていない人に比べて多くなっている。



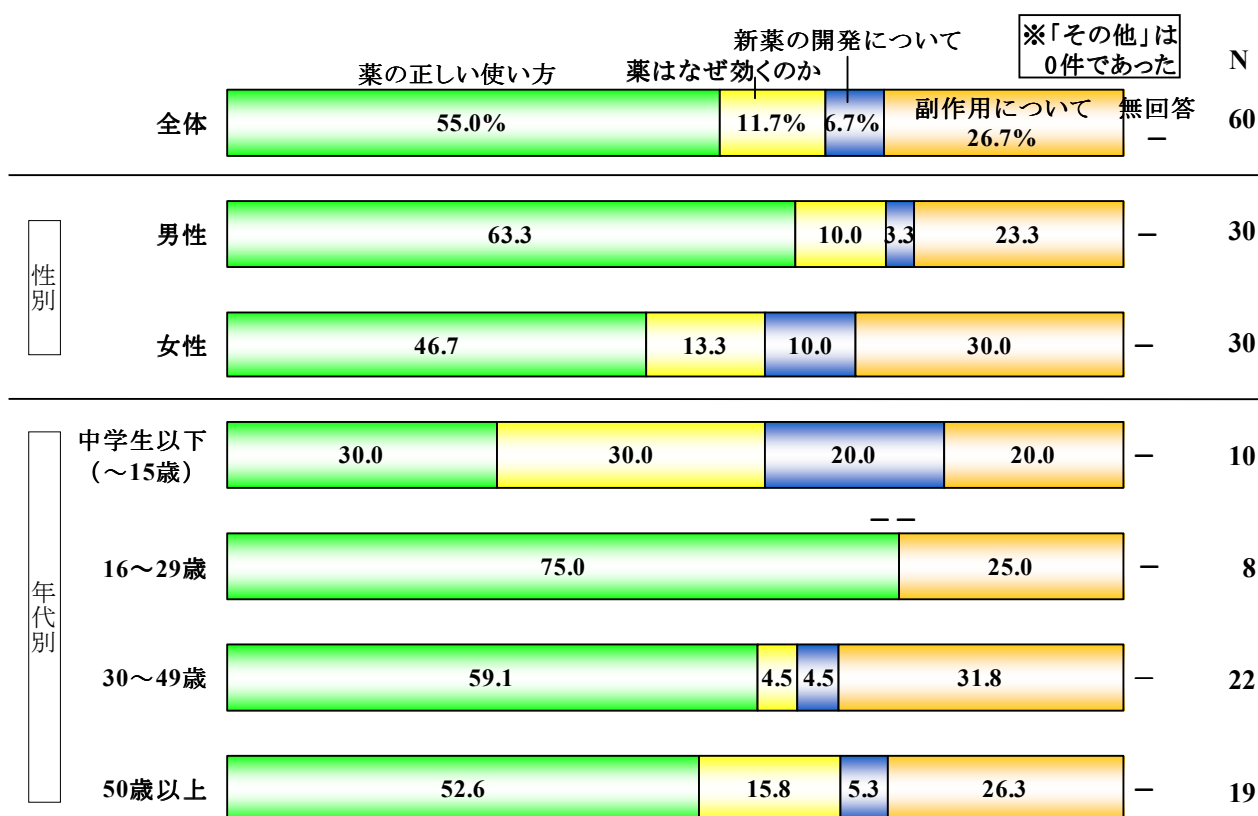


(4) 学校の「くすり教育」で学びたいこと -全体、性別、年代別-

学校の「くすり教育」で学びたいのはどんなことかを聞いたところ、「薬の正しい使い方」が55.0%で過半数を占め、次いで、「副作用について」が26.7%で2割以上である。以下、「薬はなぜ効くのか」が11.7%、「新薬の開発について」が6.7%であった。

【性別】男性、女性ともに、「薬の正しい使い方」が最も多く、男性で6割以上、女性で4割以上の回答がみられた。

【年代別】中学生以下（～15歳）では、「薬の正しい使い方」（30.0%）、「薬はなぜ効くのか」（30.0%）をはじめ、「新薬の開発について」（20.0%）、「副作用について」（20.0%）と一様な分布を示している。





(4) 学校の「くすり教育」で学びたいこと

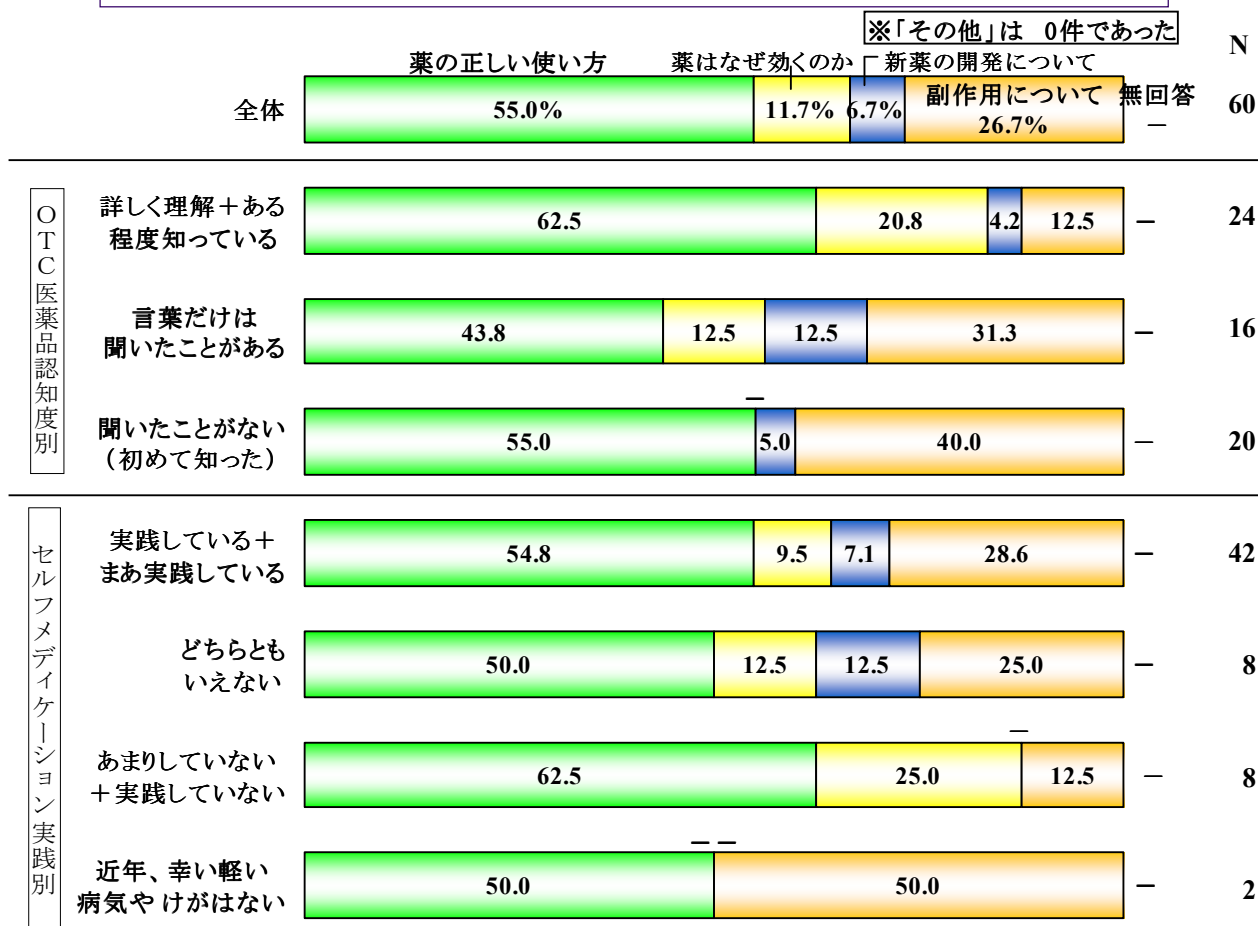
－全体、OTC医薬品認知度別、セルフメディケーション実践別－

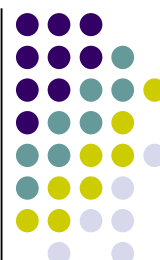
【OTC医薬品認知度別】

OTC医薬品の認知度で『知っている』（「詳しく内容を理解している」＋「ある程度内容を知っている」）と答えた人では、「薬の正しい使い方」（62.5%）が6割以上を占めている。「言葉だけは聞いたことがある」、または「聞いたことがない（始めて聞いた）」と答えた人では、「副作用について」をあげる人が多くなっていることがうかがえる。

【セルフメディケーション実践別】

セルフメディケーションの実践を『している』（「実践している」＋「まあ実践している」）、「どちらともいえない」、および『していない』（「あまりしていない」＋「実践していない」）で分けたとき、「くすり教育」で学びたい内容に大きな違いはないものと考えられる。



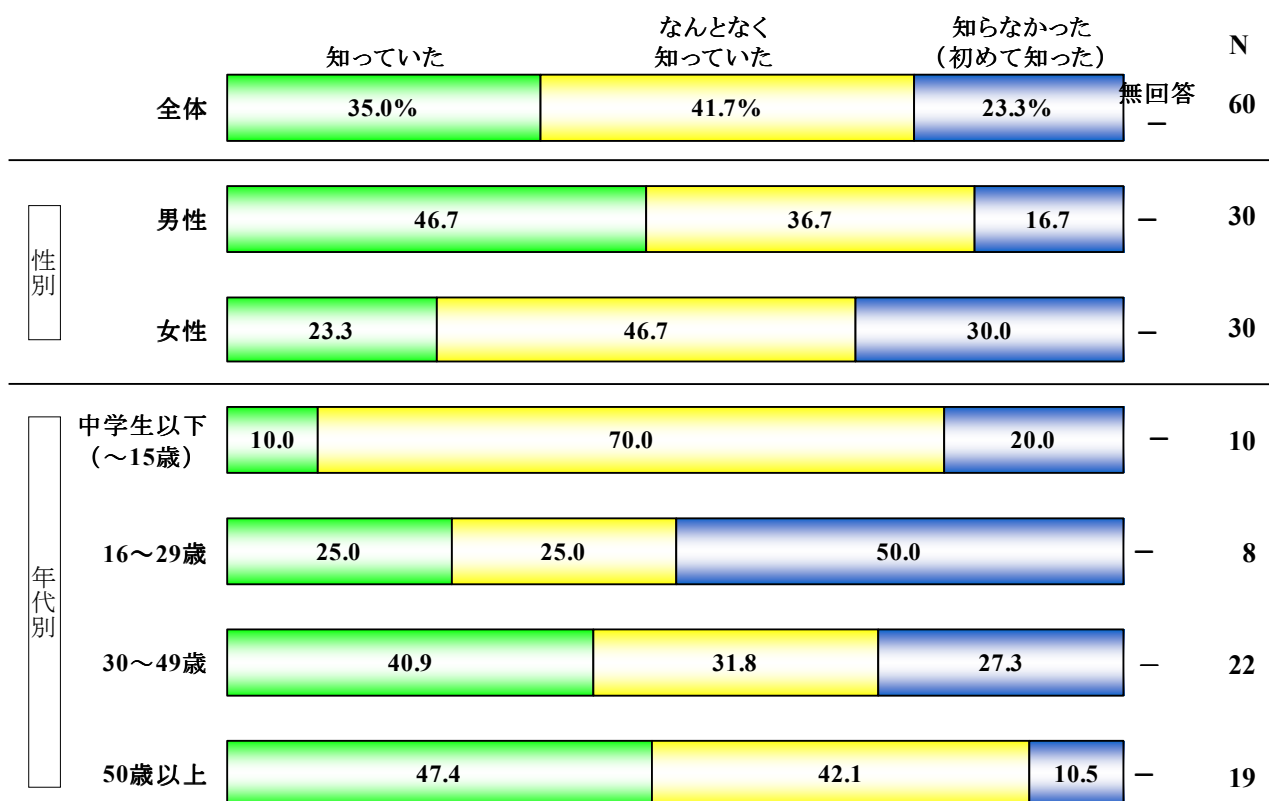


(5) サプリメントの効果や安全性の確認義務の認知 -全体、性別、年代別-

サプリメントは「食品」なので、薬のように効果や安全性をきちんと確認する義務がないことについては、「知っていた」が35.0%、「なんとなく知っていた」が41.7%、「知らなかった(初めて知った)」が23.3%である。

【性別】男性では、「知っていた」と答えた人が46.7%であり、女性に比べて多くなっている。女性では、「なんとなく知っていた」と答えた人が46.7%で最も多い。

【年代別】年代が上がるにつれて、「知っていた」と答えた人が多くなる傾向にあると考えられる。





(5) サプリメントの効果や安全性の確認義務の認知

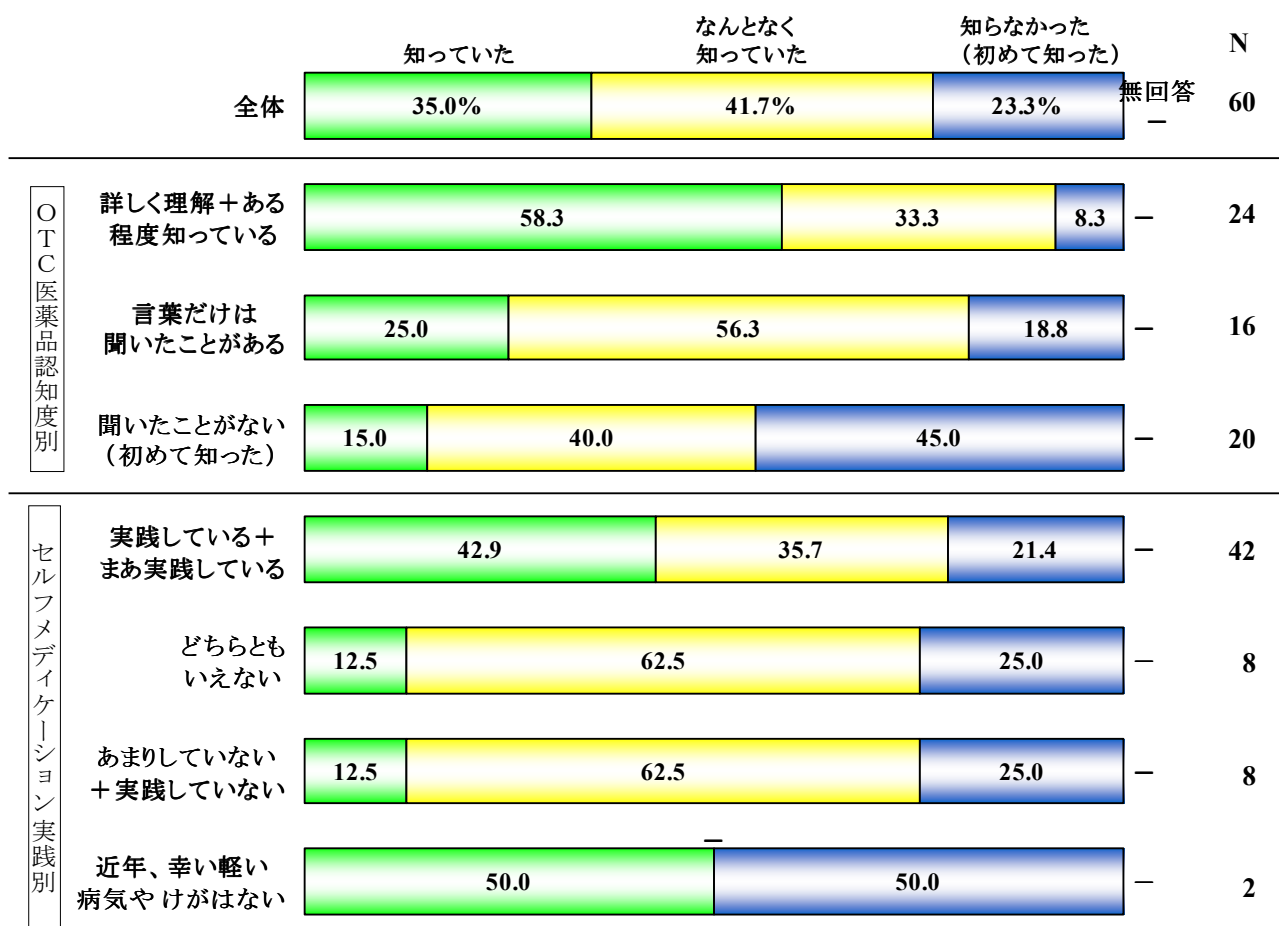
-全体、OTC医薬品認知度別、セルフメディケーション実践別-

【OTC医薬品認知度別】

OTC医薬品の認知度で『知っている』(「詳しく内容を理解している」+「ある程度内容を知っている」)と答えた人では、「知っていた」(58.3%)が6割近くを占めている。

【セルフメディケーション実践別】

セルフメディケーションの実践を『している』(「実践している」+「まあ実践している」)と回答した人では、「知っていた」と答えた人が42.9%で4割以上である。





(6) 本広告特集についての感想や質問（自由記述）

本広告特集、「OTC医薬品」「セルフメディケーション」についての感想や質問を自由に記述してもらったところ、60人中49人から回答があった。内容を複数回答で分類したものが、下表である。『本広告特集全体への感想』については、「参考になった・勉強になった」(8人)という内容の記述が多くみられる。『OTC医薬品について』では、「OTC医薬品についてわかった」(5人)、「自分や家族のために、OTC医薬品の勉強をしようと思う」(4人)などの内容で、意見があげられていた。

回答者数：49人中

感想・意見		(人)
本広告特集全体への感想		
参考になった・勉強になった		8
定期的に掲載してほしい・今後も期待する		3
内容に興味をもった、関心をもった、もっと知りたい		1
読みやすい・わかりやすい		1
個々の内容への感想		
副作用への不安や自己責任の重要性について		3
くすり教育について		2
国の社会保障のためにもセルフメディケーションは必要・大切である		1
OTC医薬品について		
OTC医薬品についてわかった		5
自分や家族のために、OTC医薬品の勉強をしようと思う		4
OTC医薬品をもっとPRすべき		1
現在OTC医薬品を利用している、薬局で入手している		1
OTC医薬品の名称がわかりにくい		1
セルフメディケーションについて		
セルフメディケーションがよくわかった・大切である		6
薬局に対して		
薬局・ドラッグストアに薬剤師が常駐を希望		1
かかりつけ薬局で薬について確認をしたい		1
本広告特集全体への意見・要望等		
内容が分かりづらい、難しい、もう少しわかりやすくしてほしい		2
OTC医薬品に対する質問・要望		2
その他紙面への要望		2
その他		4